

目次

編輯覚え書

森鷗外先生を偲ぶ

田口文太

1号 昭和四〇(1965) 一〇・一〇

2号 昭和四一(1966) 三・三二

鷗外についての想い出

砂に書かれた記録

常磐会と鷗外

古川清彦

浅見淵 久松潜一 薄金兼次郎 入江為常 田中憲三

―鷗外記念館が建つまで―

森 於菟

「伴戦扶労」

新海竹蔵

森澄泰文 岡田正弘 山内義雄 服部嘉香 入江克巳

挨拶(鷗外記念講演会)

高橋誠一郎

観潮閣と印絆纏

森 富貴

高橋邦太郎 和田光子 萩谷好之助 上野精一 蘆原英了

森鷗外記念講演会 講演要旨

賀古書簡から見た鷗外

松原純一

後藤末雄 細田源吉 森田たま 有島生馬 平塚らいてう

近代文学に於ける鷗外の位置

伊藤 整

賀古書簡

松原純一

藤浪 和 神近市子 徳田一穂 荒畑寒村 宮 芳平

「かのやうに」について

松本清張

賀古鶴略年譜

賀古書簡(続) 小金井良精 森於菟宛

鷗外の蹤跡

唐木順三

編輯覚え書

松原純一

編輯覚え書

川崎 宏

「鷗外をめぐる人々」講演梗概

小田切秀雄

3号 昭和四二(1967) 七・九

4号 昭和四三(1968) 一一・三〇

坪内逍遙―没理想論争(逍鷗論争)の意義―

「青年」の小泉純一

澁川 驍

即興詩人小解 澤柳大五郎

鷗外と与謝野寛・晶子

新聞進一

手束を通して見た鷗外と逍遙

本間久雄

『雁』のモデルと開成学校・医学校

佐藤良雄

小山内薫のこと

尾崎宏次

鷗外先生にお目にかからざるの記

石田幹之助

鷗外と虫明久平

横尾安夫

上田敏先生について

矢野禾積

権威の意

小堀杏奴

森於菟、虫明久平両博士に捧げる

長谷川泉

森しげ女の「あだ花」

洪川 驍

散歩

森 類

鷗外の生年と戸籍と旧居

森 眞章

鷗外先生と修と

平出 禾

鷗外病歿の前後

小金井良一

鷗外のベルリンの家

川崎 宏

死に臨んでの遺言について

野田宇太郎

伯父の想い出

岸 三二

新資料 鷗外書簡 中原涉宛

川崎 宏

新資料(書簡二種三通)

森家の墓地

長谷川泉

小野節宛

事務局

森鷗外略年譜

鷗外家系考

関 良一

「福岡日日新聞」掲載記事

森鷗外文学碑(一)〔小倉〕

鷗外博士のこと―二葉亭追憶文など―

嘉治隆

鷗原八幡宮の流鏑馬馬場〔津和野〕

野田宇太郎別刷写真

一

長谷川泉 別冊写真

編輯覚え書

川崎 宏

5号 昭和四四 (1969) 五・二五

鷗外を怒らせた近松秋江の作品

—鷗外の「本家・分家」と秋江の『再婚』—

成瀬正勝

鷗外とベルリン

—『舞姫』『キタ・セクスアリス』『妄想』の跡を訪ねて—

ミュンヘンと「うたかたの記」

古い写真に寄せて

遺墨一点

三明永無氏蔵の「森林太郎」標札

編輯覚え書

6号 昭和四五 (1970) 一〇・三〇

森鷗外と 聖書

鷗外とベルリン (続)

鷗外遺言碑建立の記録

〔遺言碑写真・碑陰刻文・設計図〕

鷗外遺言碑建立趣意 遺言書周辺

除幕の日に—挨拶に代へて

古きうつし画にゆかり求めて

ゆかりなき人の絵〔附言〕

【資料】鷗外の演説「勤務ト学会トノ関係」要旨

「海外通信」に附せられた鷗外註釈

編輯覚え書

7号 昭和四五 (1970) 一一・一五

森鷗外とE・メチニコフ

鷗外先生と美術解剖学

森鷗外の医学—森於菟先生の御霊前に—

性の啓蒙

森鷗外「北遊記」管見

—弘前を中心に—

台湾にあつた鷗外遺品について

森鷗外と武島務

—鷗外伝の欠落の部分としての補説—

資料「門司新報」の鷗外関係記事

森鷗外四十九回忌

編輯覚え書

8号 昭和四六 (1971) 三・一〇

森鷗外と聖書(二)

—青柳まさじ様にささぐり—

小倉の地と人と—鷗外の周辺—

伊達一男

鷗外と歌(おぼえがき)

伊達一男

川崎 宏

小堀桂一郎

西田正秋

横尾安夫

河村敬吉

川村欽吾

蔡 錫圭

長谷川泉

長谷川泉

長谷川泉

別刷写真

長谷川泉

長谷川泉

長谷川泉

野溝七生子

野溝七生子

小林安司

小林安司

鷗外と歌(おぼえがき)

陸渴南ゆかりの人々

鷗外・鶴所と加藤拓川—賀古書簡に触れて—

「尾花集」と鷗外

武士の影

ゆかりの地を巡りて

懐旧の津和野

森鷗外四十九回忌記録

—資料—「門司新報」の鷗外関係記事(続)

編輯覚え書

編輯覚え書

9号 昭和四六 (1971) 六・一〇

森鷗外五十回忌記念特集

禅と花

鷗外と「宮中某重大事件」

鷗外とベルリン (三)

「にわせきしよう」の花

私の「大発見」

哲人森鷗外先生

鷗外詩書二三

観潮樓

岡野他家夫

川村欽吾

洪谷宗光

森 類

やまだとおる

森 富貴

長谷川泉

長谷川泉

長谷川泉

長谷川泉

長谷川泉

岡崎義恵

古川清彦

篠原正瑛

亀井茲建

杉森久英

濱隆一郎

賀古弓弦

森 類

五十回忌を迎えて心に浮ぶことども	森 富貴	鷗外の焼芋	野田宇太郎
鷗外の思い出	木嶋武夫	森鷗外の原稿	横尾安夫
葉巻と古本の黴の匂ひ	高橋 巖	鷗外文学における人間性の研究Ⅰ	河村敬吉
情緒教育	森 茉莉	矢頭良一のこと―ある発明家の生涯―	小林安司
因縁	小堀杏奴	〔資料〕森鷗外 未発表書簡	長谷川泉
鷗外周辺のこと	中村 哲	鷗外(第一号―第十号)総目録	長谷川泉
「月草」について	久松潜一	編集覚え書	川崎 宏
森鷗外作「うたかたの記」	トマス・E・スワン	11号昭和四七(1972)七・九	川田茂一
「百物語」と鹿島清兵衛	武田勝彦・油野良子 共訳	鷗外書簡三通	森鷗外と聖書(六)
森鷗外と聖書(三)	洪川 驍	―中村不折宛―	―「フアウスト考」―
―「フアウスト考」―	野溝七生子	鷗外書簡集のことなど	鷗外と周易
森鷗外とドイツ留学	長谷川泉	森鷗外と聖書(五)	鷗外文学に於ける人間性の研究Ⅲ
鷗外と言文一致	山本正秀	鷗外とドーデ	鷗外論考資料二、三
千駄木町五十七番地跡の建碑	長谷川泉	―「戦僧」、「盲帝の曲」をめぐって―	『雁』の作品分析
編輯覚え書	長谷川泉	〔本人申出により削除〕	『澀江抽齋』をめぐって
10号昭和四七(1972)一・一九	富士川英郎	鷗外文学に於ける人間性の研究Ⅱ	―澀江保のこと―
『伊沢蘭軒』補遺と正誤	吉武好孝	慊堂日暦のこと―森鷗外博士と父桂湖村―	『鷗外漁史とは誰ぞ』をめぐる反響
森鷗外と英米文学	篠原正瑛	森鷗外の『戦論』訳述	鷗外の逸文、そのほか(一)
鷗外の「近業解題」	野溝七生子	―新資料にふれて―	澀江抽齋と佐藤元長
森と鷗外と聖書(四)	森鷗外未発表書簡(続)	【資料】	「无妄談」について
			「しがらみ草紙」論
			ジェームス・R・モリタ
			野溝七生子
			清田文武
			河村敬吉
			長谷川泉
			三枝康高
			佐藤孝己
			竹盛天雄
			伊達一男
			中井義幸
			伊達一男

		油野良子	「諸國物語」から―鷗外のフランス	高橋邦太郎	鷗外(第十一号―第十四号) 総目録	
	『阿部一族』シンポジウム	武田勝彦〔等〕	填詞鈔	馬嶋春樹	編集覚え書	長谷川泉
	ハワイ大学東アジア文学部学生	木村康男〔訳〕	鷗外と熊本	西山喩義	16号 昭和五〇(1975) 一・三〇	
	英訳「キタ・セクスアリス」雑感	武田勝彦	鷗外博士の御入門とその前後	丹藤壽恵子	森鷗外と医学〔講演〕	丸山博
	編輯覚え書	長谷川泉	鷗外の逸文・そのほか(三)	伊達一男	質疑応答	
		川崎 宏	福岡博の妻婦美女のこと	苦木虎雄	長谷川泉 今井 久 小堀杏奴 野田宇太郎 坂野和雄	
			津和野の鷗外遺言碑	野田宇太郎	吉野俊彦 岡部宗雄 津山直一 リチャード・パウリング	
13号 昭和四八(1973) 七・九			成瀬正勝氏を悼む	長谷川泉	註と補遺	丸山博
森鷗外と 聖書(七)		野溝七生子	編集覚え書	長谷川泉	フランツ・ホフマン教授	伊達一男
鷗外とドイツ・ロマン派の作品		北垣あつし		川崎 宏	小倉で、鷗外に仕えた女中・木村モト	陣山 綏
鷗外文学に於ける人間性の研究 VI		河村敬吉		長谷川泉	石桂堂の詩と肖像画	大欣一馬
鷗外論考資料二、三(二)		長谷川泉	15号 昭和四九(1974) 一月・三〇	長谷川泉	鷗外の名刺	窪田久良子
鷗外の逸文、そのほか(二)		伊達一男	エリス「事件ノ独乙婦人」	長谷川泉	鷗外(第八号―第十五号) 総目録	
銀の猫		馬嶋春樹	『山椒大夫』と『即興詩人』	剣持武彦	編集覚え書	長谷川泉
団子坂の思ひ出		矢崎登吉	「森鷗外と聖書」に就て			
編輯覚え書		長谷川泉	―事實誤認、誤記、誤植訂正の件―	野溝七生子	17号 昭和五〇(1975) 七月・一	
		川崎 宏	「森鷗外」論への散歩	大島吉之助	「舞姫」再論	洪川 驍
			鷗外という号について	中井義幸	MARTYLUM	大島田人
14号 昭和四九(1974) 三・一五		岡田正弘	「マアテルリンクの脚本」の書誌的問題	清田文武	大塩平八郎と湯川寛洞と佐藤春夫	佐藤良雄
鷗外という号について		大藤敏三	観潮楼周辺の思い出	矢崎登吉	『小嶋實素』考	山崎一穎
森鷗外の独逸日記と緒方惟直		大藤敏三	資料紹介		「エリス」という名について	中井義幸
ベネチア秘唱		野田宇太郎	Japan und seine Gesundheitspflege	横尾安夫	衛生新篇をめぐって	浅井卓夫
高山正之と森鷗外						

鷗外博士と南洋松と叔父	丹藤寿恵子	編集覚え書	長谷川泉	鷗外とポー	宮永 孝
森家の追想など	矢崎登吉	19号 昭和五一(1976) 七・九		—ポーの訳者としての鷗外—	
鷗外論考四つ	長谷川泉	座談会 鷗外の人間像を語る		名倉書簡について、その他	長谷川泉
鷗外と「千住の家」	勝山進四郎	長谷川泉〔司会〕 小堀桂一郎リチャード・パウリング		森林太郎の戸籍・於菟の出生	田中 実
森鷗外と平野万里	八角 真	小堀杏奴 野田宇太郎		鷗外・独歩	佐藤孝己
編集覚え書	長谷川泉	鷗外とロオト	横尾安夫	山田温泉と鷗外	渋川 驍
18号 昭和五一(1976) 一・一九		仮面	長谷川泉	鷗外と信州 —みちの記をめぐって—	赤羽貞雄
ブレット・ハートの「洪水」について	武田勝彦	書評 C. H. ライマー教授の『森鷗外』	武田勝彦	お出合い	丹藤寿恵子
「舞姫」をめぐる補註的考証	川上俊之	鷗外博士の御入門まで	丹藤寿恵子	「衛生新論」	伊達一男
—「エルンスト・ブライプトロイ」のこと等—		「花子」について	滝島美紀	—「医師としての森鷗外」第二部の10—	
『賤のおだまき』考	前田 愛	鷗外資料四つ	長谷川泉	賓和閣	森類
『阿部一族』論・補説	蒲生芳郎	「陸軍衛生教程」を書く	伊達一男	座談会 鷗外における日本と西洋	
—柄本又七郎手負いの場面をめぐって—		—「医師としての森鷗外」第二部の3—		長谷川泉〔司会〕 竹盛天雄 神田孝夫	
森鷗外と外崎覚 —『洪江抽斎』余聞—	川村欽吾	知的自由の圧迫に対する鷗外の反応		編集覚え書	長谷川泉
統計論争	伊達一男	ヘレン・M・ホッパー	木村康男	21号 昭和五二(1977) 七・九	
—「医師としての森鷗外」第二部の2—		観潮楼の復元図が出来るまで〔バース・平面図付〕		即興詩人メモ (上)	塚田孝雄
『小嶋寶素』考補遺—『埜系譜』について—	山崎一穎	編集覚え書	長谷川泉	「堺事件」再論	小泉浩一郎
椰子実	丹藤寿恵子	20号 昭和五一(1977) 一・一九		—鷗外は体制イデオログか—	
的矢の霞亭遺跡	長谷川泉	『文づかひ』紀行	川上俊之	「エリス」考 —鷗外とギリシア神話—	篠原正瑛
写真・鷗外文学散歩	長谷川泉	—ザクセン軍国秋季演習における鷗外の軌跡—		「阿部一族」の冒頭文から核心へ	福本 彰
鷗外(第九号、第十七号) 総目録				—「自然」と「意地」の相克・陥穿の問題—	

森鷗外小倉在任中の母宛書簡の研究

―錯簡を主として―

川田国芳

羽鳥千尋考 ―「千尋手束」にふれて―

大井恵夫

『文づかひ』紀行補遺

川上俊之

編集覚え書

長谷川泉

22号 昭和五三(1978) 一・一九

『雁』と鷗外の隠し妻児玉せき

吉野俊彦

囚はれ

小堀杏奴

「うたかたの記」考

塚田孝雄

鷗外・再活躍への一視点

山崎國紀

―新聞記者による暴行事件の意味―

「エリス」再考

中井義幸

「衛生学大意」

―医師としての森鷗外 第二部12―

『近代名作鑑賞』についての雑談

編集覚え書

長谷川泉

鷗外(第九号〜第二十一号) 総目録

23号 昭和五三(1978) 七・九

明治末年ごろの鷗外

平出 禾

―平出修「未定稿」をめぐる―

鷗外とベルリン(四)

―ふたたび第三の下宿の「謎」について―

篠原正瑛

「梶原品」試論

須田喜代次

―陸軍退官期の鷗外をふまえて―

再び諸家の鷗外論に対するいささかの疑念

嘉部嘉隆

お茶子役

丹藤寿恵子

鮎子と森鷗外

八角 真

―脇田茂市と森家のお手伝さんたち―

日清戦争と鷗外

伊達一男

―医師としての森鷗外 第二部14―

鷗外研究家伊達一男の四半世紀(上)

丸山 博

伊達一男日記(抄)

丸山 博

送り火の歌 義兄・伊達一男に捧ぐ

山村一平

『伊達一男氏をしのぶ会』発言要旨

下戸明夫

編集覚え書

長谷川泉

24号 昭和五四(1979) 一・一九

「灰燼」の構造

長谷川泉

森鷗外小倉在任中の母宛書簡の研究

川田国芳

―錯簡を主として その2―

陸軍同期生間での鷗外の序列

浅井卓夫

鷗外と菊池常三郎

―鷗外と岳父荒木博臣

坂本秀次

―漢詩文集『猶存詩鈔』を中心に―

「興津弥五右衛門の遺書」考(上)

福本 彰

―改作問題への一視点から―

鷗外研究家伊達一男の四半世紀(中)

丸山 博

編集覚え書

長谷川泉

25号 昭和五四(1979) 七・九

森鷗外のドイツ三部作成立の背景

清田文武

―文芸批評との関連を中心として―

津和野町歌と鷗外先生

苦木虎雄

『青年』論

小林一郎

―鷗外創作の限界についての試論―

(編集覚え書 長谷川泉)

橋本綱常先生と森林太郎先生

岡部宗雄

―日本赤十字社創立百年を超えて補遺―

「森鷗外の歴史小説」まえがき

J・トーマス・ライマー

今村楯夫

「興津弥五右衛門の遺書」考(中)

福本 彰

―改作問題の一視点から―

(編集覚え書 長谷川泉)

鷗外の履歴書

長谷川泉

—未発表鷗外の書簡二つ—

ベルツ博士と私

森鷗外の「雁」における動物の持つイメージ

ジエームズ・エム・ヴァーダマン

鷗外とドイツ—側面からの考察

横溝政八郎

—鷗外とも関連して—

鷗外先生の隠し妻

市川為雄

「鷗外文庫」目録抄

坂本秀次

「鷗外文庫」目録抄

坂本秀次

編集覚え書

長谷川泉

—岡野他家夫蔵本『目録』「和漢書之部」より—

—岡本蔵本「和漢書之部」より—

29号 昭五六(1981)七・九

鷗外研究家伊達一男の四半世紀(下)

丸山 博

鷗外と彫塑家武石弘三郎

佐々木嘉朗

『舞姫』エリスの原像

川上俊之

「近代日本文学翻訳書目」中の森鷗外

長谷川泉

鷗外の第一創作集

金子幸代

—小説技法上の序論的考察—  
鷗外文学の淵原(その一) ルソオ

編集覚え書

長谷川泉

—『涓滴の意図』—

—小説技法上の序論的考察—

26号 昭五五(1980)一・一九

鷗外先生とわが家

亀井茲建

「興津弥五右衛門の遺書」考(下)  
—改作問題の一視点から—

「懺悔記」刊行の顛末  
堺事件—フランス側資料

中井義幸

『たづねの』からみた常磐会

坂本秀次

日本の知識人における問題と責任

森 常治

クリスチャン・ポラック・植木二葉  
済生会病院に関する鷗外二書簡を中心にした一考察

鷗外の「小倉転勤」再考

浅井卓夫

編集覚え書

長谷川泉

原田直次郎とドイツ婦人画家C. Pfaff  
—「独逸日記」より—

ささやかな疑問「其時」—興津弥五右衛門の遺書

28号 昭五六(1981)一・一九

亀井茲建

須田喜代次

佐々木嘉朗

鷗外先生と茲明

黒田新市

原田直次郎とドイツ婦人画家C. Pfaff  
—「独逸日記」より—

或る日の聞き齧り

丹藤寿恵子

観潮楼とサカナ屋

坂本秀次

鷗外と麦飯

浅井卓夫

—鷗外博士の御言葉—

「鷗外文庫」目録抄

坂本秀次

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より—

坂本秀次

「鷗外文庫」目録抄(第五回)

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より—

鷗外とドイツ語—補説

藤井正人

—岡野蔵本「和漢書之部」より—

坂本秀次

編集覚え書

長谷川泉

森鷗外のミュンヘン地誌

W・シヤモニ

鷗外研究年表(1) 津和野時代

苦木虎雄

27号 昭五五(1980)七・九

鷗外作『寿阿弥の手紙』について

吉野俊彦

—改作問題の一視点から—

福本 彰

編集覚え書

長谷川泉

最後の大晦日

丹藤寿恵子

30号 昭五七(1982) 一・一九

鷗外先生と茲常

亀井茲建

ツルゲーネフ「春の水」と鷗外

笹淵友一

『舞姫』の謎

川上俊之

日本の真相・三論 鷗外に倣いてナウマンを駁す

藤井正人

鷗外文学の淵原(その一)ルソオ

「懺悔記」刊行の顛末(二)

中井義幸

『鷗外文庫』目録抄第六回

坂本秀次

〜岡野蔵本『目録』

鷗外研究年表(2)「修学時代」(上)

苦木虎雄

編集覚え書

長谷川泉

31号 昭五七(1982)七・九

森鷗外・ドイツ留学最後の一年

坂本秀次

鷗外文学の淵原(その二)

E・T・A・ホフマン

「うたかたの記」の謎解き(上段)

中井義幸

森鷗外の小倉時代

石井郁男

—「戦論」翻訳をめぐって—

『舞姫』エリスの造形

川上俊之

『鷗外文庫』目録抄(第七回)

坂本秀次

〜岡野蔵本『目録』「和歌書之部」より

鷗外博士御薨去前後

丹藤寿恵子

鷗外研究年表(3)「修学時代」(下)

苦木虎雄

編集覚え書

長谷川泉

32号 昭五八(1983) 一・一九

鷗外先生と茲明(続)

亀井茲建

津和野出身陸軍医八杉敏雄について

八杉龍一

森鷗外と藤田嗣章—未発表鷗外書簡—

吉野俊彦

『後北游日乗』関係の一資料

清田文武

—『新潟新聞』の記事—

『舞姫』と鷗外の創作意識

川上俊之

—ハルトマン『美学』への書き入れをめぐって—

『鷗外文庫』目録抄第(八回)

坂本秀次

〜岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より

鷗外研究年表(4)『陸軍出仕から留学まで』

苦木虎雄

鷗外博士の御懇情

丹藤寿恵子

編集覚え書

長谷川泉

33号 昭五八(1983) 七・九

ミュンヘン郊外の鷗外故地探訪

中川浩一

『独逸日記』の世界

川上俊之

—鷗外のベルリン到着—

鷗外断章

藤井正人

『鷗外文庫』目録抄第九回

〜岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より〜

鷗外研究年表(5)留学時代(I)

苦木虎雄

ミュンヘン時代の鷗外

—独文新資料その1—

金子幸代

鷗外博士とお食事

丹藤寿恵子

編集覚え書

長谷川泉

鷗外手記(Zabel: Deutschland in China 抄訳) 表4

34号 昭五九(1984) 一・一九

森鷗外作「堺事件」論考(一)

福本彰

鷗外光明寺三郎に会う

中川浩一

『独逸日記』の世界

川上俊之

—鷗外のライブチヒ留学—

ライブツイヒ時代の森鷗外

金子幸代

—鷗外をめぐる人々・『獨逸日記』資料その2—

『舞姫』エリスの夢と幻滅

新井弘

鷗外文学の淵原(その二) E・T・A・ホフマン

「うたかたの記」の謎解き(中段)

中井義幸

『鷗外文庫』目録抄第十回

坂本秀次

〜岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より

鷗外研究年表(6)「留学時代」(Ⅱ)

苦木虎雄

書評長谷川泉著『鷗外文学の涓滴』について

―演劇・音楽・文学・『独逸日記』資料その3―

【書評】丸山博著「森鷗外と衛生学」

浅井卓夫

森鷗外と『花子』(独文)

森鷗外作「堺事件」論考(三)

福本彰

〔英文・第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議基調講演

―「堺事件」論争の詳細な検討を通して―

原稿] LITERARY TRADITION AND ITS

編集覚え書

鷗外 シュタットバーンに乗る

TRANSFORMATION IN JAPAN

長谷川泉

長谷川泉

編集覚え書

長谷川泉

長谷川泉

35号 昭五九(1984)七・九

陸軍引退後同僚に送った鷗外の謝詩の解釈について

「うたかたの記」の謎解き。下段の一

『キタ・セクスアリス』に於ける外国語の分析

―古川義一元陸軍二等軍医正保存鷗外関係資料―

編集覚え書

別華薫

吉野俊彦

吉野俊彦

『独逸日記』の世界 ―鷗外のミュンヘン到着―

『舞姫』の詩学

森鷗外と川田順 ―未発表 鷗外書簡―

川上俊之

川上俊之

森澄泰文

「プリンヂイシイ」推究

中川浩一

森鷗外旧邸の今昔

森鷗外作「堺事件」論考(二)

―石黒直恵と森鷗外の出会―

森鷗外作「堺事件」論考(四)

―「堺事件」論争の詳細な検討を通して―

丹藤寿恵子

福本彰

鷗外文学の淵原(その二) E・T・A・ホフマン

「鷗外文庫」目録抄第十二回

福本彰氏の《論難》にこたえる―

「うたかたの記の謎解き」、下段の一

坂本秀次

「鷗外文庫」目録抄第十三回

鷗外「舞姫」の碑

―東ベルリンの森鷗外記念館開館式記念講演―

「独逸日記」の世界―鶴山湖畔の宿―

高慧勤女史訳「舞姫」読後

長谷川泉

坂本秀次

「鷗外文庫」目録抄第十一回

鷗外研究年表(8)「留学時代」(Ⅳ)

『独逸日記』の世界―長谷川泉

―岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より―

「そめちがへ」の様式とその周辺

〔ライプチヒの日本文化週間における記念講演〕

鷗外研究年表(7)「留学時代」(Ⅲ)

苦木虎雄

金子幸代

苦木虎雄

ライプツィヒ時代の森鷗外Ⅱ

鷗外における《若きヴィーン派》翻訳の意義

—シュニッツラー、ホーフマンスタイル、パールの翻訳作品の考察を通して—  
林 正子

鷗外文学の淵源  
中井義幸

INTERMISSION：解説「ドイツ三部作の構成」

編集覚え書  
長谷川泉

ベルリンの鷗外起居の部屋で記帳する森眞章 表 4

### 38号 昭和六一(1986) 一・一九

剪刀  
澤柳大五郎

森鷗外とドイツ文化のかかわり  
長谷川泉

「マールブルク大学における講演記録・独逸紀行写真付」

鷗外とドイツ女性  
金子幸代

—『獨逸日記』資料その4—

奈良市水道と森鷗外  
富崎逸夫

森鷗外博士と市歌  
丹藤寿恵子

日露戦時の森鷗外  
中村文雄

—妻しげ子への手紙を中心に—

鷗外研究年表(9)「留学・帰国」  
若木虎雄

都市空間としてのライプツィヒ  
金子幸代

—ライプツィヒ時代の森鷗外Ⅲ・『獨逸日記』資料その5—

大本宮野戦衛生長官部の陣中日誌  
森 富

—「徂征日記」「日清役自紀」の裏付け資料としての意義—(一)

鷗外訳ウイード短篇四作(二)  
長島要一

続「興津弥五右衛門の遺書」後考  
福本彰

—蒲生芳郎氏の同(手法)の再演をあわれむ—

鷗外文学の淵源(その四)

イヴァン・トゥルゲニエフ「舞姫」の文学的起原(一)

「鷗外文庫」目録抄第十四回  
中井義幸

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より—

坂本秀次

森鷗外作「堺事件」論考(五)

—堺事件論争の詳細な検討を通して—

福本彰

「弔辞」栗原茂三氏を偲ぶ  
長谷川泉

### 39号 昭和六一(1986) 七・九

編集覚え書  
長谷川泉

鷗外の俳句  
清田文武

SCHMIDT. S. JAHRBÜCHER DER IN-UND AUSLÄND  
ISCHEM GESAMTEN MEDICIN に掲載されている

鷗外の医学論文の抄録について  
浅井卓夫

「詠伯林婦人七絶句」考  
川上俊之

「奈良市水道と森鷗外」補稿  
富崎逸夫

記録・劇化及び映画化された森鷗外作品  
佐々木嘉朗

『ドイツ三部作』狂気と水と言葉と

—虚構としての『獨逸日記』資料その6—  
金子幸代

鈴木藤吉郎の二分銀について  
今村啓一

鷗外研究年表(10)「明治二十二年」  
若木虎雄

「鷗外文庫」目録抄第十五回

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より—  
坂本秀次

鷗外文学の淵源(その四)  
中井義幸

ツルゲネフ「舞姫」の文学的起原(二)

鷗外の母峰子と「西洋為替」  
平林 司

—送金先はエリーゼではなかったか—

書評 長谷川泉著鷗外文学と「独逸紀行」  
石井 治

編集覚え書  
長谷川泉

### 40号 昭和六二(1987) 一・一九

森鷗外「還東日乗」におけるシラー、蘇東坡、高青邱

への言及の意味 —「逐客」「狂客」にも触れつつ—

遠藤誠治

鷗外訳「父の讐」とマードレング  
長島要一

〈校閲〉という資料 —クライスト作/緑堂訳/鷗外関「ひ

ろひ兒」紹介—  
田中 実

日清戦時の森鷗外  
中村文雄

(編集覚え書 長谷川泉)

森鷗外と小泉信三 —ベルリンの今昔—  
石井 治

映画「阿部一族」を見る  
大石 汎

異邦の愛かそれとも愛された異邦性か

Übersetzung Von Mori Ogais' Tsuina. [独文]

書評 浅井卓夫著 軍医鷗外森林太郎の生涯

―隔たりを超越している森鷗外の作品について―

Christoph Neubert

長谷川 泉

デイドロリツヒ・クルーシエ・林 正子(訳)

Ingrid Nepecks

鷗外における「運命」II

東伯林・森鷗外記念館訪問記

伊藤發子

Masako Hayashi (林正子)

金子幸代

―ステレン夫人の孫がマリー街に住んでいる―

森鷗外と榊俣

長谷川 泉

大本宮野戦衛生長官部の陣中日誌

編集覚え書

長谷川 泉

(編集覚え書 長谷川 泉)

―「徂征日記」「日清役自紀」の裏付け資料としての意義―(一)

41号昭和六二(1987)七・九

坂本秀次

大本宮野戦衛生長官部の陣中日誌

森 富

森 富

『鷗外文庫』「目録抄」拾遺、二つの話題

―「徂征日記」「日清戦役自紀」の裏付け資料としての意義―(二)

鷗外研究年表(二)「明治二十三年」

苦木虎雄

森鷗外と上田敏の西班牙語音論争

浅岡邦雄

石本新六について

今村啓一

森鷗外作「塚事件」論考(六)

福本 彰

(編集覚え書 長谷川 泉)

編集覚え書

長谷川 泉

―「塚事件」論争の詳細な検討を通して―

中川 浩一

「事件ノ独乙婦人」問題考察

富崎逸夫

森鷗外展(ミュンヘン)開催記念

長谷川 泉

ビュルツブルクの鷗外

大杉喜久男

―エリーゼの来日から帰国まで―

鳴呼、プリンヂイシイの港を出でよ

「独逸・埃太利・伊太利紀行」〔旅行案内〕

長谷川 泉

鷗外先生ゆかりの地を訪れて

大杉喜久男

―「舞姫」のプリンヂイシイ・セイゴン私考―

三浦吉明

鷗外は平出修に何を示教したか

平出 彬

「鷗外文庫」目録抄第十六回

坂本秀次

(編集覚え書 長谷川 泉)

42号 昭和六三(1988)一・一九

森鷗外と熊本細川藩

村岡 功

〔岡野蔵本『目録』『和漢書之部』より〕

坂本秀次

(編集覚え書 長谷川 泉)

―大逆事件をめぐる―

森鷗外と熊本細川藩

岩町 功

【新刊紹介】

石井 治

森鷗外と長岡半太郎

有美孫(伊藤孫一)小伝

(編集覚え書 長谷川 泉)

岩町 功

Edwin Maclellan 著 『Woman in the Crested

Kimono-The Life ofShibue Io and Her Family,

郷愁の鷗外

大石 汎

有美孫(伊藤孫一)小伝

村岡 功

Drawn from Ogais' 'Shibue Chusai'

小泉浩一郎

鷗外研究年表(12) 明治二十四年～二十五年

大石 汎

(編集覚え書 長谷川 泉)

岩町 功

「ニル、アドミラリイ」考

小泉浩一郎

鷗外研究年表(12) 明治二十四年～二十五年

苦木虎雄

「ぱっさあじゅ」考

川上俊之

―鷗外とニヒリズム―

川上俊之

(編集覚え書 長谷川 泉)

カールスルーエの鷗外

川上俊之

―鷗外とニヒリズム―

川上俊之

(編集覚え書 長谷川 泉)

カールスルーエの鷗外

中川 浩一

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ノート(一)

―主筆時代の「東京医事新誌」の目次(1)(苦木虎雄編)

(編集覚書き 長谷川 泉)

ビート・ルキの困惑

森 類

ゲネラル・ヴェルダ―号の一等船客

―エリーゼ・ヴィーゲルトを目撃した人びと―

富崎逸夫

「鷗外文庫」目録抄第十七回

―岡野蔵本『目録』『和漢書之部』より―

坂本秀次

大本宮野戦衛生長官部の陣中日誌

―「徂征日記」「日清戦役自紀」の裏付け資料としての意

義一(四)

森 富

日本現代文学特徴の探求

唐 月梅

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外研究年表(13)「明治二十六年〜二十七年」

苦木虎雄

森鷗外作「堺事件」論考(七)

福本 彰

―「堺事件」論争の詳細な検討を通して―

編集覚え書

長谷川 泉

43号 昭和六三(1988)七・九

海外最初の鷗外展

長谷川 泉

(編集覚書き 長谷川 泉)

挨拶内容の紹介(開会式)

(編集覚書き 長谷川 泉)

挨拶(開会式)

森 眞章

ミュンヘンで鷗外展を催して

[朝日新聞 1987.11.24 夕刊の転載]

ウォルフガング・シヤモニ

日独文化交流

森 眞章

いとしの翼よ

森 里子

渋江抽斎旧蔵の「玉海」(鷗外展にみた周辺資料展示品)

森 富

森鷗外展(ミュンヘン)開催記念、独逸・奥太利・伊

太利紀行日記抄

大島田人・中川浩一

デュウベンは「文づかひ」と無関係

―筑摩版「鷗外全集」と「現代日本文学アルバム」の誤を

正す―

中川浩一

(編集覚書き 長谷川 泉)

ベルリンよりローマへ

広末 久

森鷗外ツアーの記録(グラフ)

大島田人(解説)

ミュンヘン鷗外展資料

長谷川 泉 編

(祝偈等 塩沢玄泰

田中康子(訳)

ふたたび鷗外先生ゆかりの地を訪ねて

大杉喜久男

感銘の旅、「森鷗外ツアー」に参加して

飯島義郎

鷗外の土地意識と「うたかたの記」

明石利代

(編集覚書き 長谷川 泉)

ドレスデンからライプチヒへ

泉 菊女

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ツアーの感想

佐々木千尋

八月と十月の鷗外ツアーに参加して

庄司美和

ドレスデン時代の森鷗外

―曙光・『舞姫』の歌:『獨逸日記』その七―

金子幸代

(編集覚書き 長谷川 泉)

「森鷗外展」雑感

―ミュンヘン、ベルリン、マッヘルン―

藤井啓行

(編集覚書き 長谷川 泉)

ミュンヘンの森鷗外展

檀原みすず

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ツアーにて

高田水馬

森鷗外の『北遊記』と弘前について

―父の研究とその後の弘前について―

松木明知

(編集覚書き 長谷川 泉)

テーベス百門の大都

川上俊之

「雁」の紙幣について 今村啓一

(編集覚書き 長谷川 泉)

ハイケ・シエヒエ

長谷川泉著『鷗外文学管窺』について 洪川 驍

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外研究年表(14)「明治二十七年〜二十八年」 苦木虎雄

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

村岡 功

鷗外の「北游日乗」と青森(一)

松木明知

「鷗外文庫」目録抄第十八回

―青森の大火はいつか―

岡野蔵本『目録』『和漢書之部』より

坂本秀次

陸軍軍医主流派

鷗外ノート(二)

苦木虎雄(編)

(編集覚書き 長谷川 泉)

・小池正直・森鷗外から見た臨床派・菊池常三郎・江口襄

―主筆時代の『東京医事新誌』の目次(2)

鷗外訳ストリンドベリ劇(1)

二つの手斧

遠藤誠治

―『一人舞台』―

長島要一

編集覚書き

長谷川 泉

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ノート(三)

「舞姫」の歴史性について

編集覚え書

長谷川 泉

―主筆時代の「東京医事新誌」の目次(3)

苦木虎雄 編

千種キムラステイブン

森鷗外展が行われたバイエルン州立図書館

表 4

(編集覚書き 長谷川 泉)

44号 昭和六四(1989)一・一九

(編集覚書き 長谷川 泉)

富崎逸夫

森鷗外と日本の近代化

谷 学謙

ADLERFLUG 独文「鷲は翔ぶ―若き鷗外ドイツの春秋」に付いて

鷗外の「後北游日乗」と青森(二)

松木明知

(編集覚書き 長谷川 泉)

藤井正人

―「鶴屋」か「滝屋」か―

『二十世紀批評大系』に見る森鷗外

田中康子 訳

ベルリン日独センターにおける森鷗外展開催式典

鷗外印譜について

森澄泰文

(編集覚書き 長谷川 泉)

森 眞章

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外関係墓地参詣記

村岡 功

ウオルフガング・シャモニ教授 文京区長を表敬訪問

鷗外森林太郎の雅号「隠流」考

篠原義彦

鷗外ゆかりの土地―向島の旧居

富崎逸夫

「三四郎」と「雁」

佐藤繁雄

再び、森鷗外の平出修示教について

中村文雄

(編集覚書き 長谷川 泉)

「三四郎」と「雁」

長谷川 泉

―大逆事件をめぐって―

大本宮野戦長官部の陣中日誌―「徂征日記」「日清戦役自

(編集覚書き 長谷川 泉)

「鷗外文庫」目録抄第十九回

坂本秀次

紀」の裏付け資料としての意義―(五)

森 富

森鷗外の初期作品に与えたドイツの影響

―岡野蔵本『目録』『和漢書之部』より―

坂本秀次

大本宮野戦衛生長官部の陣中日誌

供養塔建立の経緯について

森 眞章

鷗外訳ストリンドベリ劇(2)

―「徂征日記」「日清戦役自紀」の裏付け資料とし

(編集覚書き 長谷川 泉)

―『債鬼』と『パリアス』―

長島要一

ての意義―(六)

森 富

鷗外の蘇峰宛書簡(全集逸文)一通

清田文武

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ノート(四)

苦木虎雄

鷗外の「後北游日乗」と青森三

松木明知

鷗外研究年表(15) 明治二十八年〜三十年

―主筆時代の「東京医事新誌」の目次

(編集覚書き 長谷川 泉)

森鷗外作「堺事件」論考(八)

苦木虎雄

松木明知「森鷗外の『北遊記』と弘前について」を繞

日独合作映画「舞姫」を觀て

長谷川 泉

―「堺事件」論争の詳細な検討を通して―

福本 彰

つて松木明知君へ

川村欽吾

編集覚え書

長谷川 泉

―「堺事件」論争の詳細な検討を通して―

(編集覚書き 長谷川 泉)

46号 平成二(1990) 一・一九

『二十世紀批評大系』に見る森鷗外(承前)

田中康子 訳

「阿部一族」の人間紋様

村岡 功

ベルリン・フンボルト大学附属森鷗外記念館

森 眞章

編集覚え書

田中康子 訳

森鷗外独逸留学とその前後

中村文雄

全館開館式典

森 眞章

編集覚え書

長谷川 泉

―陸軍省資料からの断片的補足―

ベルリンフンボルト大学ハス総長の挨拶

ダイエター・ハス

45号 昭和六四／平成元年(1989) 七・九

立原道造と森鷗外

鷗外縁かりの土地―根岸旧居

富崎逸夫

(編集覚書き 長谷川 泉)

ダイエター・ハス

―『立原道造全集』における記述の検索―

錦織政晴

「鷗外文庫」目録抄第二十回

坂本秀次

DDR 日本文化協会会長シュールマイスターの挨拶

新井弘一

(編集覚書き 長谷川 泉)

〓岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より

森鷗外記念館での新井大使挨拶文

新井弘一

「舞姫」太田豊太郎のモデル「武嶋 務」資料の受贈

第一回日ソ共同シンポジウム

長谷川 泉

(1989・6・2 於フンボルト大学)

森 眞章

長谷川 泉

長谷川 泉 キム・レーホ イリーナ・ポローニナ

森 眞章の挨拶

森 眞章

(編集覚書き 長谷川 泉)

兵藤正之助 羽鳥徹哉 金井景子 川端香男里

(編集覚書き 長谷川 泉)

森鷗外と高村光太郎の接点(その一)

請川利夫

松坂俊夫 原 善 タチヤーナ・グリゴリーエワ

【掲載写真】

(編集覚書き 長谷川 泉)

マイヤ・ゲラーシモワ 岩田光子 平山三男

式典(フランデンブルグ四重奏団演奏)／遺言銅板除幕／ベル

常明寺における森白仙・於清・ミ子

山田吉郎 小林一郎 馬場重行

ント教授への表彰状授与／ベアーテ・ウエーバー女史の揭示物

の説明風景／記念記帳する日本 DDR 文化協会鈴木治雄会長／

ハス総長の挨拶／DDR 日本文化協会シュールマイスター会長の

挨拶／新井大使挨拶／式典会場に入る森眞章・里子夫妻

「森鷗外・中国紀行」 大島田人・大石汎

（「うた日記」の舞台Ⅱ中国東北地方と北京の旅）日記抄

（編集覚書き 長谷川 泉）

今は幻の柳樹屯

森 富

ペッテンコーフェル署名写真

長谷川 泉

「森鷗外・中国紀行」花遊記

森 令子

（編集覚書き 長谷川 泉）

日露戦役（第二軍）と「森鷗外・中国紀行」写真集

『うた日記』の時空間

金子幸代

（編集覚書き 長谷川 泉）

「舞姫」(Tänzerin) の幻想

大杉喜久男

日本フィンランド関係史における森鷗外

阿部唱一

―ワールベルイとシベリウスの唱歌に関する新事実―

若き鷗外の啓蒙活動

清田文武

（編集覚書き 長谷川 泉）

「魔睡」に関する一資料

―三浦謙之助の侍医就任を巡って―

大屋幸世

「エリス」再考 ―五歳年上の人妻だったのか―

荻原雄一

「心象館」建設をめぐる

長谷川 泉

（編集覚書き 長谷川 泉）

鷗外ノート(五)

―「衛生新誌」の目次(1)―

苦木虎雄 編

（編集覚書き 長谷川 泉）

鷗外滞独素材小説とライブチ

明石利代

鷗外縁かりの土地―向島根岸の旧居(補稿)

富崎逸夫

鷗外と霞亭との関係

―抽斎との対比に於いて―

村岡 功

川村欽吾氏に伝える ―反論はもっと慎重に―松木明知

「鷗外文庫」目録抄第二十一回 ―岡野蔵本『目録』和

漢書之部―より―

坂本秀次

立原道造と森鷗外(補遺)

―「鷗外関係雑誌」における鷗外記事の検索― 錦織政晴

鷗外研究年表(二)「小倉時代」(二)

苦木虎雄

編集覚え書

長谷川 泉

中村文雄氏「追悼文」

長谷川 泉

47号 平成二(1990)七・一九

森鷗外と富士川游

富士川英郎

晩年の軍医森鷗外

―「臨時脚気病調査会」から―

坂本秀次

（編集覚書き 長谷川 泉）

鷗外におけるドイツ三部作

清田文武

鷗外ノート(六)―「衛生新誌」の目次(2)―

苦木虎雄

（編集覚書き 長谷川 泉）

鷗外と新聞―「灰燼」を中心として―

村岡 功

鷗外とシヤック画廊

明石利代

（編集覚書き 長谷川 泉）

「文豪森鷗外の留学時代を偲ぶ旅」報告

大島田人

W・シヤモニ教授に日本翻訳文化賞

長谷川 泉

（編集覚書き 長谷川 泉）

観潮楼歌会の詠草草稿について

平出 彬

（編集覚書き 長谷川 泉）

森鷗外「細木香似」の資料

柴口順一

鷗外訳ストリンドベリ劇(3)

―『稻妻』と『ペリカン』―

長島要一

森鷗外「塚事件」論考(九)

―「塚事件」論争の詳細な検討を通して―

福本 彰

（編集覚書き 長谷川 泉）

鷗外研究年表(18)「小倉時代」(二)

苦木虎雄

（編集覚書き 長谷川 泉）

長島要一博士を囲んで「即興詩人」セミナー

(編集覚書き 長谷川 泉)  
常明寺森家供養塔建立開眼式に参列して  
(編集覚書き 長谷川 泉)

硝子の水槽の中の茉莉

森鷗外と高村光太郎の接点(その二)

編集覚え書

48号 平成三(1991) 一・一九

「渋江抽斎」の研究(一)

—抽斎遺族の帰郷の経路について—

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外訳スエーデン女流作家作品二篇

—ラーゲルレフ『牧師』とステインホフ『夜の二場』—

鷗外ノート(七) —「衛生新誌」の目次(3)

(苦木虎雄 編)

(編集覚書き 長谷川 泉)

「扣鈕」に想う

高官鷗外とその時代

—大正デモクラシーの光と影—

(編集覚書き 長谷川 泉)

「おもかげ」の文学碑

長谷川 泉

(編集覚書き 長谷川 泉)  
『澀江抽斎』関係資料

—「森積園伝」の復刻(前)—

(編集覚書き 長谷川 泉)

「鷗外文庫」目録抄第二十二回

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より—

鷗外研究年表(19)「小倉時代」(三)

(編集覚書き 長谷川 泉)

MORI ŌGAI 『ILLUSION』森鷗外『妄想』(独訳)

鷗外「舞姫」と川端康成

第二回日ソ共同シンポジウムへの抱負

編集覚え書

訂正と添書

49号 平成三(1991) 七・九

土山二つの宿

(編集覚書き 長谷川 泉)

森鷗外をめぐる

(編集覚書き 長谷川 泉)

森鷗外の『北遊記』と弘前

ドイツにおける森鷗外

ドイツにおける森鷗外

—ベルリンの森鷗外記念館(北九州市における講演)

(藤村美織 訳)

鷗外ノート(八)

—「医事新論」の目次・「衛生療病志」の目次 苦木虎雄 編

(編集覚書き 長谷川 泉)

山縣・石黒と森鷗外 —忠誠と抵抗—

(編集覚書き 長谷川 泉)

長瀬時衡と森鷗外

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外日記と銀座 —明治時代—

(編集覚書き 長谷川 泉)

晩年の軍医森鷗外 第二回

—臨時脚気病調査会の批判—

(編集覚書き 長谷川 泉)

【書評】

『点滴森論鷗外論』(長谷川 泉著)

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外研究研究(20)「小倉時代」(四)

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外・旅とその作品

(編集覚書き 長谷川 泉)

小川 康子

坂本 秀次

苦木 虎雄

金子 幸代

長谷川 泉

長谷川 泉

長谷川 泉

長谷川 泉

長谷川 泉

長谷川 泉

大島 田人

森 眞章

松本 武夫 訳

長谷川 泉

台北・基隆・澳底の旅

― 鷗外の歴史小説・史伝の中の女性像 ―

金子幸代

― 「森積園伝」の復刻(後) ―

小川康子

蔡錫圭教授との再会を含めて

森 富

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外文献集纂

長谷川 泉

(編集覚書き 長谷川 泉)

香港・台湾鷗外紀行報告写真集

金子幸代

― 「衛生療病志」目次(2)

苦木虎雄編

51号 平成四(1992) 七・九

津和野・鷗外・二十一世紀

長谷川 泉

台湾・香港の森鷗外

金子幸代

(編集覚書き 長谷川 泉)

― 「ふるさと津和野鷗外塾」開塾記念講演 ― 長谷川 泉

― 日清戦争時代を中心に ―

大島田人 平出彬両常任理事を悼む

長谷川 泉

(編集覚書き 長谷川 泉)

村岡 功

官僚 鷗外の側面 一、鷗外、その晩年 中村文雄

特別会員森類氏を悼む

長谷川 泉

鷗外の「北遊記」と弘前について(二)

鷗外日記と銀座―大正時代(七年―十二年)― 武田勝彦

井形卓三前理事長を悼む

長谷川 泉

― 鷗外の記載した時刻の正確さ ―

松木明知

気病調査会の停滞と克服 ― 坂本秀次

鷗外訳『即興詩人』とアンデルセンの原作

長島要一

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外ノート(十) ― 「衛生療病志」目次 苦木虎雄編

舞姫―対性の物語

長島要一

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外の「後北游日乗」と青森(五)

鷗外文献集纂

長谷川 泉

― 近代的自我 ― 神話転位のために

徳間佳信

― 一行の人数 ― 松木明知

50号 平成四(1992) 一・一九

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

『豊饒の海』における鷗外の遺響(上)

清田文武

「航西日記」(和訳)

安川里香子

鷗外短歌の書作

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

― 金子鷗亭氏が森鷗外記念館(伯林)に寄贈 ― 長谷川 泉

鷗外日記と銀座―大正時代(元年―六年)―

武田勝彦

「鷗外文庫」目録抄第二十三回

値長谷川泉先生十二巻本著作選刊行之際

鷗外のドイツ「三部作」頌歌

大杉喜久男

― 岡野蔵本『目録』『和漢書之部』より ―

坂本秀次

喜賦七律一首隔海致賀 陳 生保

「斗タ・セクスアリス」の発禁と文芸院

伊狩 章

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外漢詩漢詩索引

― 鷗外・漱石の接触到ふれて ―

伊狩 章

鷗外研究年表(21)「小倉時代」(五)

苦木虎雄

― 広島大学社会科学部研究科 曾秋桂 落合由治 金子幸代

(編集覚書き 長谷川 泉)

(編集覚書き 長谷川 泉)

鷗外の翻訳文学と近代演劇 金子幸代

母性原理を越えて

『澁江抽齋』関係資料

― 明治四十年代から大正五年までの翻訳上演戯曲 ―

鷗外研究年表(22)「小倉時代」(六) 苦木虎雄

『鷗外』総目次 宮本則子、錦織政晴編

自創刊号(昭和40年・1965年)至50号(平成4年・1992年)

付・執筆者索引・件名索引・分類索引

鷗外文献集纂 長谷川泉

52号 平成五(1993) 一・一九

「北游日乗」を読む 武智秀夫

官僚 鷗外の側面 二少年の日の軌跡 中村文雄

鷗外訳稿コッホ頌(全集逸文)一篇 清田文武

蹇々匪躬 森 富

鷗外ノート(十一)

「衛生療病志」の目次(4) (苦木虎雄編)

鷗外の「後北游日乗」と青森(四) 死節碑 松木明知

ベルツ供養塔の近況 中川浩一 鮎川郁子

航西の志 明治前半留学者の群像 村岡 功

漢詩における鷗外と漱石との違い

—「雲」を中心に— 曾 秋桂

「鷗外文庫」目録抄第二十四回

—岡野蔵本『目録』「和漢書之部」より— 坂本秀次

鷗外研究年表(23) 明治三十六年〜三十七年 苦木虎雄

鷗外文献集纂 長谷川泉

53号 平成五(1993) 七・九 特集 日中翻訳交流

鷗外盛儀と日中翻訳交流 長谷川泉

平松幹夫会長の歓迎の辞 李景端团长答辞

訪日団の滞在日程 日本翻訳家協会訪中団名簿

日本翻訳家協会訪中団歓迎会での挨拶 李 景端

謝辞 長谷川泉

丁光訓先生、韓文藻先生との邂逅 森 秀樹

日本翻訳家協会訪中団を迎える 陳 生保

平成四年の鷗外ブームの現状と日中文化交流(無記名)

著作権と「出版権」 山本 誠

現代日本文学の状況・レジメ 荻原雄一

江南雑記 廣末 久

後北游日乗を読む 武智秀夫

R・ゴットシャルの経歴 武田勝彦

宙ぶりの家庭—鷗外『半日』論— 金子幸代

鷗外ノート(十二) —「衛生療病志」の目次(5)

・「公衆医事」の目次(1) 苦木虎雄編

北海道における森鷗外の足跡

—明治十五年と大正三年の新聞調査から— 松木明知

諭吉・周と森鷗外 明治啓蒙家の洋行と活動 村岡 功

『晩年の軍医森鷗外』第四回「史伝発想の内裏」(二)

—脚気病調査会の障害と鷗外の習性— 坂本秀次

制度のなかの女性

—鷗外と漱石のヒロイン— 金子幸代

【座談会】加藤剛主演『舞姫』をめぐる

森真章 森里子 広末久 池上正治

荻原雄一(司会) 長谷川泉

座談会後記 長谷川泉

舞姫・小説・舞台 池上正治

幻の「舞姫」に日本で対面して 張 曉民

鷗外研究年表(24)「日露の役」 苦木虎雄

【書評】

長島要一著『森鷗外の翻訳文学「即興詩人」から「ペリカ

ン」まで』 清田文武

長谷川泉著『森鷗外盛儀』 小泉浩一郎

【新刊紹介】

金子幸代著『鷗外と〈女性〉—森鷗外論究』

木谷喜美枝

鷗外文献集纂 長谷川泉

54号 平成六(1994) 一・十九

『文づかひ』の一舞台 川上俊之

鷗外の医学生時代と衛生学

—当時わが国で出版された衛生学書を中心に— 武智秀夫

鷗外の小説作品における「鷗」の意味 曾 秋桂

鷗外ノート(十三) —「公衆醫事」の目次(2)

苦木虎雄

鷗外の「後北游日乗」と青森(六)

松木明知

—龍宮市と立鼓—  
静かな啓蒙 —明治三十年代の鷗外—

村岡 功

官僚鷗外の側面

中村文雄

『森鷗外文庫・蔵書目録』最終回総括

坂本秀次

Heike Shoche 『Deutschlandagebuch』を読んで

やまだ・とおる 羽白由美子 金子幸代

カーテイ・ミツイ ペーター(日本名ハンジ)

鷗外研究年表(25) 日露の役

苦木虎雄

ユルゲン・ベルント教授を悼む

長谷川 泉

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

55号 平成六(1994) 七・九

免官後の武島務—森鷗外「舞姫」の詩と真実—

平井 孝

観潮楼より津和野へ

今西久穂

プラーゲルの陸軍医事制度書について

武智秀夫

第三十四回アジア北アフリカ研究国際会議に参加して

長島要一

鷗外忌によせて

大杉喜久男

【資料紹介】

鷗外記念本郷図書館所蔵・鷗外自筆未発表書簡一通

山崎一穎

鷗外研究年表(26) 日露の役

苦木虎雄

『晩年の軍医森鷗外』「史伝発想の内実」(3)

『森鷗外とゲーテ』(その二)

坂本秀次

鷗外の「後北游日乗」と青森(七)

松木明知

鷗外と自我

村岡 功

鷗外ノート(十四)

—「公衆醫事」の目次(3)

—「文学評論しがらみ草紙」の目次(1)

苦木虎雄

ユルゲン・ベルント教授の思い出

森 眞章

デンマーク、コペンハーゲン大学長島要一博士に

第三回森鷗外記念会賞授与

長谷川 泉

「鷗外全集」逸文 雙木園主人・堀捨二郎編述

江戸時代戯曲小説通志—誠之堂蔵板—への『文学博士

森林太郎の序文』

藤井誠一

「うた日記」論—「罌粟、人糞」を中心に—

大塚美保

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

森鷗外記念会賞受賞 長島要一博士 至文堂 黒河内平社長

56号 平成七(1995) 一・十九

津和野町の森鷗外記念館

平成六年一月十一日に起工式終わる

長谷川 泉

ルートとその著書「陸軍衛生学全書」について

武智秀夫

「私の鷗外」を求めて(1)

尾崎健次

ベルリン医学留学生とその恩師たち・谷口謙の場合

—森鷗外「舞姫」の詩と真実—

平井 孝

鷗外ノート(十五) —「文学評論しがらみ草紙」の目次(2)

苦木虎雄

鷗外全集逸文書翰一通

松木明知

晩年の森鷗外

村岡 功

近代演劇と森鷗外・補遺

金子幸代

至宝『阿蜜哩多軍茶利法』の行方

森 秀樹

鷗外研究年表(27) 明治三十八年—三十九年

苦木虎雄

木嶋家訪問の記

森 富

「舞姫—エリスのために」もう一度

ベアーテ・ウエバー 藤村美織・訳

長谷川泉著『鷗外文獻集纂』

小林安司

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

57号 平成七(1995) 七・九 特集「森鷗外記念会三十年史」

森鷗外記念会創立三十周年を祝う 文京区長遠藤正則

森鷗外記念会の展望三十年 長谷川泉

森鷗外記念会と記念室―藪下通りの今昔 佐藤繁雄

森鷗外記念会設立経過資料(再録)

「砂に書かれた記録」抄 森 於菟

鷗外記念事業十七年の記録 野田宇太郎

鷗外記念図書館建設雑記 井形卓三

「挨拶」(鷗外記念講演会) 高橋誠一郎

森家に関する追悼文(再録)

名誉会長森於菟氏逝去―旧臘二十一日自宅で―

森於菟博士を悼む 野田宇太郎

○小金井良一氏

森 類氏夫人死去さる

森 富貴氏ご逝去

名誉会員 森 茉莉さんを悼む 長谷川泉

名誉会員 森 類様のご逝去を悼む

\*以上「森鷗外記念会通信」六・一七・三四・五八・七九・九

五から再録

名誉会員森類氏を悼む 長谷川泉

森鷗外記念会三十年史 年表 関沢政久 山崎穆

MORI ŌGAI: "Ohne seinen Namen zu nennen"

森鷗外『なのりそ』(独訳) 金子幸代 チナ・マルチン

留学が実現するまで 武智秀夫

『日東十客』の写真 中井義幸

秋山清水画伯のベルント教授肖像画、伯林の森鷗外記念館に寄

贈/津和野町の森鷗外記念館の工事、順調/島根県美濃郡美都

町都茂にサルバルサンの発見者秦佐八郎を記念する「秦記念館」

/姫路文学館での森鷗外展 長谷川泉

巴里の鷗外 武田勝彦

鷗外ノート(十六)―「文学評論しがらみ草紙」の目次(3)

隠逸と濟物と―霞亭を付度する― 村岡 功

新「舞姫」論争―ベアータ・ウエーバー女史に反論する―

萩原雄一

エリーゼはなぜジェノア経由で帰国したのか 富崎逸夫

津金孝邦氏より個展作品の寄贈を受ける

文京区立鷗外記念本郷図書館長 木下千恵子

「私の鷗外」を求めて(2) 尾崎健次

鷗外研究年表(28) 明治三十九年―四十年 苦木虎雄

東大弥生門外の立原道造記念館 長谷川泉

【書評】

中村文雄著『森鷗外と明治国家』 松島榮一

鷗外文獻集纂 長谷川泉

58号 平成八(1996) 一・一九

猪狩三等軍医墓誌銘―その空白と所在― 森 富

水くぐる鶉のいさましさあはれなり 清田文武

隊務日記を読む(一) 武智秀夫

退学後の武島務―森鷗外『舞姫』の詩と真実― 平井 孝

秩父路を尋ねて 宮沢孝夫

『鷗外森林太郎「航西日記」注解ノート』への応答 中井義幸

鷗外森林太郎「航西日記」注解ノート

井澤恒夫 伊藤由美子 大野亮司

武智政幸 本田孔明

独・森鷗外記念館(ベルリン) 支援募金のお願い

鷗外巴里初会再論 長谷川泉

森鷗外「フラスチエス」と木下李太郎 武田勝彦

―社会批判の眼と自己批判の眼と― 遠藤誠治

「うた日記」感傷紀行―猿児石から南山まで 富崎逸夫

鷗外「うた日記紀行」日記抄 大石 汎

「慊堂日曆」の女人たち 村岡 功

鷗外ノート(十七)―「しがらみ草紙」の目次(4)

「めざまし草」の目次(1)

「経籍訪古志」をめぐる―その序、跋と森枳園

村岡 功

「鷗外」誌に憶う

「鷗外」誌と私 富崎逸夫／鷗外研究の国際化のために 長島要

一／「鷗外」誌に憶う 苦木虎雄／「鷗外」誌に憶う 明石利代

／「鷗外」誌に憶う 柴口順一／「鷗外」誌に憶う 小林安司／

「鷗外」誌に憶う 須田喜代次／「鷗外」誌に憶う―「堺事件」

論争をめぐる―小泉浩一郎／賀古書簡について 竹盛天雄／鷗

外と青野季吉 清田文武／『鷗外』誌に憶うこと 田中実

「鷗外」誌、回顧と展望六十号

《「鷗外」創刊号復刻》

長谷川 泉

長谷川 泉

紀行・独逸と巴里の旅

森 富

石井郁男『鷗外「小倉左遷」の謎』を読む

山崎一穎

鷗外研究年表(31) 明治四十一年～四十二年

苦木虎雄

丸山博理事を悼む

長谷川 泉

軍医森鷗外再考(続稿)

中井義幸

―隊付勤務一件顛末―

資料公刊に至るまでの経緯について

中井義幸

軍医森鷗外再考

中井義幸

鷗外旧居考

上杉伸夫

鷗外文学と天皇制 ―『かのやうに』について

野村幸一郎

鷗外とドイツの現在

金子幸代

鷗外研究年表(30) 明治四十一年

苦木虎雄

鷗外文献集纂

長谷川 泉

鷗外の医学生時代考

上杉伸夫

隊務日記を読む(三)

武智秀夫

『或る「小倉日記」伝』論 ―事実と虚構の交叉―

山崎一穎

『北游日乗』の足跡と漢詩(二)

安川里香子

わが青春の記録から

安川里香子

―ルドルフ・フォン・ゴットシャルの回想―

武田勝彦

立野公一 訳

鷗外ノート(十九)―めざまし草の目次(8)―芸 分

苦木虎雄

―萬年艸

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外ノート(十八)―めざまし草の目次(2)

苦木虎雄

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

鷗外歴史文学考(二)

新名規明

苦木虎雄

中井義幸

長谷川 泉

森 富

苦木虎雄

清田文武

長谷川 泉

特集「小倉津和野ツア―」

長谷川 泉

富崎逸夫

大杉喜久男

中川浩一

金子幸代

チナ・マルチン

安川里香子

武智秀夫

新名規明

苦木虎雄

苦木虎雄

苦木虎雄

苦木虎雄

苦木虎雄

苦木虎雄

「めざまし草」の目次(1)

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

鷗外・ドナウ紀行概要報告

森 富

北遊記の鷗外書幅

森 富

61号 平成九(1997)七・九 特集「鷗外」60号発刊記念

森鷗外と松本清張

村岡 功

ドレスデンでの鷗外—軍医講習会を中心に—

武智秀夫

ライプツヒヒでの衛生学研修

武智秀夫

ライプツヒヒ時代の軍事研修

武智秀夫

落合雙石について

武智秀夫

北尾次郎の伝記的諸事実について

平賀英一郎

『舞姫』と19世紀ユダヤ人問題

真杉秀樹

—『伊澤蘭軒』・『北条霞亭』の補註的考察—(上) 前田 淳

高坂駒三郎に宛てた鷗外青年期の書簡

小田皓二

鷗外の医学生時代考—補遺

上杉伸夫

自尊心昇華の軌跡—諦め、灰燼、遺書—

村岡 功

「鷗外」という号—全創作署名一覧表から見て—

曾 秋桂

鷗外歴史文学考(三)

新名規明

「ライプツヒヒ時代の軍事研修」補遺

曾 秋桂

鷗外全集の逸文—伊藤素軒著『ミレエ伝』序と書簡—

曾 秋桂

鷗外「舞姫」と四迷『浮雲』『即興詩人』他

遠藤誠治

—ザクセン州立中央公文書館(Sächsisches Hauptstaatsarchiv, Dresden)の資料から—

武智秀夫

鷗外全集の逸文—伊藤素軒著『ミレエ伝』序と書簡—

苦木虎雄

—その影響関係をめぐって—

遠藤誠治

Dresden)の資料から—

武智秀夫

「森鷗外小倉在任中の母宛書簡の研究

苦木虎雄

『舞姫』における気象描写

杉元完治

森鷗外と明治の脚気問題(その一部)

山下政三

「森鷗外小倉在任中の母宛書簡の研究

川田国芳

内藤長十郎と酒—森鷗外と酒その一—

前田 淳

名譽会員小堀杏奴さんを悼む

長谷川 泉

—錯簡を主として—の補遺と訂正

川田国芳

鷗外研究年表(33)「明治四十二年」

苦木虎雄

「森鷗外小倉在任中の母宛書簡の研究—錯簡を主として—

『北游日乗』の足跡と漢詩(三)

安川里香子

『北游日乗』の足跡と漢詩(四)

安川里香子

『美しい日本の私』

川田国芳

平成九年八月九月の「森鷗外 ドナウ紀行」金子幸代

金子幸代

「航西日記」注釈(II)

井澤恒夫

グリゴリーエバ・タチアーナ・ペトロープナ著

鷗外研究年表(32)

苦木虎雄

井澤恒夫 伊藤由美子 大野亮司

武智政幸 本田孔明

松本武夫訳述

東大弥生門外の立原道造記念館開館行事

長谷川 泉

哀悼 苦木虎雄評議員

長谷川 泉

「航西日記」注釈(III)

松本武夫訳述

中国からの二論文

長谷川 泉

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

井澤恒夫 伊藤由美子 大野亮司

フンボルト大学新聞ニュース

金子幸代

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

武智政幸 本田孔明

曾秋圭博士(台湾)の「漱石と鷗外との比較研究」

長谷川 泉

63号 平成十(1998)七・九

鷗外の遺言と采典制度

鷗外研究年表(34)「明治四十二年〜四十三年」 苦木虎雄

—漢詩創作を軸にして—学位論文概要

長谷川 泉

—新資料・加藤拓川宛賀古鶴所書簡の意味するもの—

渡辺義雄

【対談】

鷗外文獻集纂

長谷川 泉

—新資料・加藤拓川宛賀古鶴所書簡の意味するもの—

渡辺義雄

『舞姫』をめぐって 萩原雄一／金子幸代

62号 平成十(1998)一・一九

渡辺義雄

萩原雄一／金子幸代

鷗外「うた日記」より

藤井正人

森鷗外記念会会計監査報告と対応

長谷川泉

森鷗外と関西の文学散歩 自由と美

松崎八千代

森鷗外 独逸・瑞西紀行へのお誘い

金子幸代

『後北游日乗』の漢詩(1)

ならまち散策

檀原みずす

鷗外文献集纂

長谷川泉

―旅立ち前後の詩―

安川里香子

「森鷗外と関西の文学散歩」に参加して

長坂克巳

64号 平成十一(1998) 一・一九

東京専門学校講師 森林太郎

武田勝彦

鷗外「舞姫」における「きのふの是はけふの非なるわが瞬時の感触」考

門随想

「小倉日記」と土山常明禅寺

兼子靖久

(付 編集中期 長谷川泉)

『舞姫』におけるアルト・ベルリンの地誌

遠藤誠治

―『莊子』、良寛、四迷『浮雲』との関連について―

長谷川泉

丹後宮津を訪ねて

安川里香子

―「クロステル巷の古寺」とパロヒアル・シユトラーセを中心に―

真杉秀樹

鷗外文献集纂

長谷川泉

安寿姫の働かされた潮汲みを考える

中川浩一

心―

山下政三

65号 平成十一(1998) 七・九

特集「森鷗外と関西の文学散歩」 「森鷗外独逸 瑞西紀行」

森鷗外紀行 独逸・瑞西の旅

森富

森鷗外と明治の脚気問題(その一部) 続

村岡 功

森鷗外記念会主催「森鷗外と関西の文学散歩」総論 長谷川泉

映画の中の森鷗外

ベアーテ・ヴェーバー

西周伝への若干の考察

林 量三

「森鷗外と関西の文学散歩」参加者一覽

鷗外文献集纂 長谷川泉

―慶喜と周、周と鷗外―

前田 淳

「森鷗外と関西の文学散歩」頌詩

森憲二

還東日乗を読む(一)

武賀秀夫

「落合雙石について(下)」

林 量三

関西文学散歩に参加して

66号 平成十一(1998) 一・一九

時代背景からみた「日本医学会論」と「傍観機関」論

山下政三

―『伊澤蘭軒』・『北条霞亭』の補註的考察―

林 量三

鷗外の縁につながるもの

原田廣巳

「路溼好尋乾處行」考

前川清太郎

老いてなお ―鷗外作品の盲点を追う―

林 量三

「森鷗外」と関西の文学散歩―三十句―

吉倉 煌

「智慧袋」研究

ローザ・ヴナー／森ゆり子訳

主として『鷗外が結婚した日はいつか』について

尾崎健次

「鷗外探訪関西の旅」に参加して

尾崎テル子

「鷗外」を往く

―赤松家資料調査紹介―

尾崎テル子

「鷗外」を往く

尾崎テル子

「鷗外」を往く

森鷗外『雁』の文学的背景としての『虞初新志』

尾崎テル子

「鷗外」を往く

尾崎テル子

「鷗外」を往く

鷗外「歴史文学考」(三) 補遺

尾崎テル子

「鷗外」を往く

尾崎テル子

「鷗外」を往く

―長谷川泉氏宛書簡―

尾崎テル子

「鷗外」を往く

尾崎テル子

「鷗外」を往く

―長谷川泉氏宛書簡―

尾崎テル子

「鷗外」を往く

尾崎テル子

「鷗外」を往く

「エリス」の肖像―ドイツ女性の社会史からの照明―

真杉秀樹

一葦航す―鷗外・森林太郎 上京コース私論―

林 量三

鷗外「舞姫」と露伴『天うつ浪』・小論

遠藤誠治

―その影響関係をめぐって―

作者の記述ミス ―「うたかたの記」「護持院原の敵討」―

川田国芳

鷗外歴史文学考 (四)

新名規明

鷗外遺言書の周辺

加藤喜一郎

森鷗外の武谷水城宛書簡二十通

武谷恵美子

鷗外文献集纂

長谷川 泉

67号 平成十一(1998)七・九

参類異彩燦映 I

長春での日中共同シンポジウム

長谷川 泉

―川端文学研究第四回―

【参加者】於長春 範業本 呂元明 原 善 李徳純 奥村紀

美 高根沢紀子 金春華 福田淳子 胡孟聖 島村輝谷学謙

川俣従道 李芒 高慧勤 三田英■

日中共同シンポジウムへの期待

長谷川 泉

シンポジウムに寄せて

■向榮

川端文学研究会の過去・現在・未来／長春での日中共同川端文

学シンボ／「鷗外」未公開書簡二十通／燦映／□啄

長谷川 泉

II

森鷗外 独逸・英国紀行

森 富

鷗外とベルリン軍医学校

鮫島夏樹

独・蘭・英から見た鷗外

金子幸代

最高の旅の思い出

鶴田君子

鷗外とシェイクスピア

大内典子

III

ゲーテ・鷗外縁りの旅に参加余聞

佐藤繁雄

ドイツ紀行・一九九九

森鷗外のベルリン第三の下宿

壇原みすず

森鷗外記念会主催 首都ベルリン復帰・ゲーテ生誕二百五

十年記念探訪旅行・概況報告

中井義幸

『後北游日乗』の漢詩(2)

吉倉 煌

第一の記念館で第三の記念館を思う

池田 忠

―函館・臥牛山での詩―

安川里香子

折鶴に託す鷗外の念

兼子靖久

「文化」としてのエリーゼ

真杉秀樹

独国遊学始末

東 優

―ドイツ女性史からの照明―

真杉秀樹

空碧くシユタルンベルク湖水澄みて

泉 菊女

【書評】

鷗外の峰子宛書簡「二八七」号(岩波全集) について

ゲーテ・鷗外縁りのドイツ紀行

小峯 進

鷗外の峰子宛書簡「二八七」号(岩波全集)

川田国芳

宮崎道三郎が住んだ町―ハイデルベルク

岩村孝子

「鷗外留学始末」中井義幸著を読み

小金井純子

鷗外とゲーテを尋ねて

篠崎セウコ

鷗外研究年表(35) 明治四十三年

苦木虎雄

「黄色」の考察

尾崎朝子

鷗外研究年表(35) 明治四十三年

苦木虎雄

印象記 川端文学研究第四回日中共同シンポジウム

歴史の痛み

森鷗外記念会主催「ゲーテ生誕250周年・ベルリン首都復活記

念」ゲーテ／鷗外縁りの旅

時のながれ

社団法人・ユネスコ教会第五回世界大会開催報告

松崎八千代

ブランデンブルグ門

忍田純子

ベルリン随想

壇原みすず

森眞章博士を悼む

長谷川 泉

鷗外全集(岩波刊)未収録の井上通泰宛『軍事郵便葉書』について

—ツァー不参加の弁—

安川里香子

鷗外文献集纂

長谷川 泉

『不可説』の位置

川田国芳

「後北游日乗」縁りの旅アルバム

松崎八千代

68号 平成十三(1999) 一・九

【報告】

長谷川 泉

『後北游日乗』の漢詩(3) —函館(二)— 安川里香子

—平成十二年森鷗外記念会旅行—

森 富

『古都』日本画と書の世界 講演会

十一月に奈良で「鷗外と奈良」展

森鷗外『舞姫』の舞台・三説

山下 寓里

鷗外研究年表(36) 昭和四十三年

苦木虎雄

李芒先生への御追懐

魏 大海

『豊鏡の海』における鷗外の遺響(中)

清田文武

「国文学解釈と鑑賞」別冊特集「立原道造」監修の辞

『小倉日記』明治34年正月3ヶ日の謎

川田国芳

伝記的スケッチとしての「鎚一下」

河野至恩

川端文学研究会編「掌の小説」論 序

森鷗外「伊澤蘭軒」と鷗外書写本

岡部健一

森潤三郎・森鷗外と「京都図書館淫書刊行事件」

高梨 章

全文が散文詩

長谷川 泉

『伊澤■軒事蹟』『軒公私略』の比較検討

林 淑丹

【特集】

高梨 章

千葉中時代の「中学文芸」などの思い出

長谷川 泉

森鷗外『雁』と『金瓶梅』

林 淑丹

湯沢町の「古都」愛賞

長谷川 泉

森鷗外の足跡を訪ねて

松崎八千代

—物語の交錯—

林 淑丹

川端康成と「雪国」の世界に誘われて

田村嘉勝

鷗外ドナウ紀行(アルバム)

長谷川 泉

谷田滋と斯文会

村岡 功

『古都』における川端文学と美術

北川榮一

南武先生の思い出

長谷川 泉

「異文化」としてのエリーゼ

真杉秀樹

川端康成の愛でた北山杉

森下良介

中国の碩学李芒先生を悼む

長谷川 泉

ドクター・ハイニンゲッツェの葬儀

中村秀穂

小説「雪国」を町づくりに

田村武雄

鷗外文献集纂

長谷川 泉

鷗外「舞姫」のヒロインのモデル墓を訪れて

長谷川 泉

高半で懇親会

高橋はるみ

69号 平成十三(1999) 七・一九

森 富

—埼玉県秩父市の武嶋務宅—

長谷川 泉

森鷗外と十九世紀ドイツの学問観

児島由理

森鷗外紀行 北欧・独逸の旅

金子幸代

【報告】 伯林・森鷗外記念館館長夫妻の来館

伯林・森鷗外記念館館長夫妻の来館

鷗外歴史文学考(五)

新名規明

森鷗外文学散歩 —北欧・ドイツの旅—

高橋 正

鷗外記念本郷図書館で懇談

河野基樹著出版祝賀のつどい

鷗外「舞姫」の都市描写と『唐詩選』

遠藤誠治

函館と医師高松凌雲のことなど

高橋 正

鷗外記念本郷図書館で懇談

長谷川 泉

「鷗外」の編集方針

長谷川泉

—伝存資料による『伊沢蘭軒』の検討—

小倉発信全書簡の空欄補填考

川田国芳

鷗外文献集纂

長谷川泉

【追悼】

【写真】平成12年の鷗外忌風景（三鷹禪林寺）

温故知新—アルバム—

長谷川泉

笹渕友一顧問を悼む

長谷川泉

【新聞対談】優れた文学はジャンルと国を超えて

70号 平成十四（2000） 一・一九

阿倍正路博士を偲ぶ

長谷川泉

サイデンステッカー・北川榮一

鷗外の論文「ビールの利尿作用について」

武智秀夫

温故知新—アルバム（2）

長谷川泉

創造と模倣 戦後日本の詩

李 徳純

【書評】

鷗外文献集纂

長谷川泉

文京区立鷗外記念本郷図書館所蔵

森網浄著 『與三學書』を読む

林 量三

71号 平成一四（2002） 七・九

森潤三郎あて与謝野寛書簡群の解説（二） —『鷗外全

—網浄は、森鷗外の祖父—

還東日乗を読む（二）

武智秀夫

集』の編纂に関わる大正一二年以降の書簡を中心に—

文京区立鷗外記念本郷図書館所蔵

翻訳 ロート博士（Prof. Roth）とホフマン博士

森富 阿倍武彦 渡辺善雄

森潤三郎あて与謝野寛書簡群の解説（一）

（Prof.Hofmann）から森林太郎宛の書簡

『後北游日乗』縁りの旅を終えて

—『鷗外全集』の企画に関わる大正一一年の書簡を中心に—

ベアーテ・ウエーバー

—平成十二年度 森鷗外記念会主催旅行—

森富 阿部武彦 渡辺善雄

ベルリン森鷗外記念館ベアーテ・ウエーバー氏より

森鷗外記念会事務局 吉倉 煌

チャザン？ サザン？

村岡 功

長谷川泉氏への書簡

ベアーテ・ウエーバー

【書評】

『鷗外図録』中の写真について

川田国芳

鷗外研究年表（38） 明治四十四年

伊狩章 『鷗外・漱石と近代の文苑

『しがらみ草紙』の「詩月旦」

合山林太郎

鷗外研究年表（39） 明治四十四年～四十五年

（付）整・譲・八一等の回想』 小泉浩一郎

—森鷗外と文壇批評漢詩—

合山林太郎

【書評】『鷗外歴史文学集第十二卷十三卷』

佐藤敬行 交友五十年

森林太郎の小倉左遷の背景

長谷川泉

鷗外文献集纂

長谷川泉

挽歌 小坂部元秀

—台湾軍への麦飯給与をめぐる土岐 ■徳と石黒直恵との大喧嘩

編集後記

長谷川泉

鷗外文献集纂

長谷川泉

森林太郎の小倉左遷（前編）

山下政三

72号 平成一五（2003） 一・一九

73号 平成一五（2003） 一・二〇

森鷗外『さえざり』（独訳）

金子幸代

澁江保の事蹟

村岡 功

都大路のパスサージュ

森 富

伊沢蘭軒とその一族の遺墨

町泉寿郎

「鷗外小倉発信288号書簡の整序と

訂正の訂正二題、その他

―『舞姫』の舞台に関して―

山下萬里

宮田忠郎

スクリーン上を動く作家

ベアータ・ウェーバー

特報 原田直次郎の友人・画家エキステル

「歌舞伎」の翻訳劇

(訳 野村美紀子)

の系図・出生届などについて

生熊 文

金子幸代

編集後記

編集委員会

森林太郎の小倉左遷(中編)

山下政三

森鷗外の「多摩武蔵野実視行」をたどる

76号 平成一七(2005) 一・二八

鷗外の雪冤、木下モトの鎮魂

―明治三十一年(一八九八)十一月の日記より―

啓蒙思想家としての五条秀麿

―『削除の復元』再考―

村岡 功

高橋修司

―「藤棚」を中心に―

谷口佳代子

森鷗外の小倉転補について

川田国芳

森鷗外資料目録 文京区立鷗外記念本郷図書館／編集

若き日の森鷗外と『莊子』の「性命」論

清田文武

森鷗外の病の光学―『仮面』論―

真杉秀樹

編集後記

編集委員会

「舞姫」の太田豊太郎の母の死をめぐる(二)

イボタ虫のことなど

75号 平成一六(2004) 七・二八

三浦吉明

―明治二十五年九月二十四日の鷗外日記より―

高橋修司

森鷗外と常磐会―主に会の発意者について―

中村文雄

森鷗外・国木田独歩における博愛と愛国心

鷗外研究年表(40) 明治四十五年〜大正元年

苦木虎雄

森鷗外・中里介山における非戦の系譜

遠藤誠治

―トルストイ『戦争と平和』を出発点に―

遠藤誠治

森鷗外資料目録 文京区立鷗外記念本郷図書館／編集

―トルストイ・内田魯庵にも触れて―

遠藤誠治

鷗外と唯識

安川民男

編集後記

編集委員会

森林太郎の小倉左遷(後編)

山下政三

日本の住宅についての民族学的衛生学的研究

高田渙訳

74号 平成一六(2004) 二・二五

―森林太郎

高田渙訳

森富所蔵 森潤三郎あて与謝野寛書簡群の解説

―小説『最後の一句』を考える―

宮田忠郎

平成13年版 森鷗外資料目録 追録3

―『鷗外全集』『日本古典全集』刊行の経緯―

武士道とニーチェ

安川民男

77号 平成一七(2005) 七・二八

森富 阿倍武彦 渡辺善雄

「鷗外」号について

川田国芳

森潤三郎小伝

森 富

森鷗外と農の心

「舞姫」の太田豊太郎の母をめぐる(一)

森潤三郎と『日本古典全集』

―伊藤左千夫『去年』等を中心に―

遠藤誠治

三浦吉明

森 富・阿部武彦・渡辺善雄

鷗外と魯迅の「諦観」

安川民男

歩く鷗外を見つけた! ―鷗外動画発見の記録―

鷗外と脚気問題

安川民男

畏友 森林太郎と乃木希典が遺した「日露戦役忠魂碑」

鷗外記念本郷図書館職員 大澤恵子

日露戦争時の森林太郎

山下政三

『舞姫』―「クロステル巷の古寺」考― 藤咲憲一

悲運の漢醫 多紀晴之助氏探訪記

森林太郎の記述に秘める 深遠な含蓄を知る― 宮田忠郎

筑摩蔵書板『父親としての森鷗外』人名索引

文京区立鷗外記念本郷図書館鷗外記念室担当作成

78号 平成一八(2006) 一・二八

「鷗外の恋人は『賤女』だった」への異見 平林 司

「鷗外の恋人は『賤女』だった」に反論する 荻原雄一

鷗外二題 ―戦争・天皇のこと 遠藤誠治

『かのやうに』を巡って 安川民男

石黒直恵、森鷗外のアヴァ号船上漢詩の応酬

―離郷三載帰郷ヲ恐ル― 高橋陽一

『舞姫』の舞台に関する補注 山下萬里

『舞姫』―「クロステル巷の古寺」考―補説 藤咲憲一

平成13年版森鷗外資料目録

文京区立鷗外記念本郷図書館編

79号 平成一八(2006) 七・三一一

「江口襄軍医の留学事情」 高橋陽一

『舞姫』

―「ミス エリーゼ・ヴィーゲルト」試論― 藤咲憲一

『大塩平八郎』と『津下四郎左衛門』 安川民男

森潤三郎著作捕遺

80号 平成一九(2007) 一・三一一

前理事長 長谷川泉先生追悼記念号(一九一八〜二〇〇四)

詩人鷗外

『後北游 静日乗』の足跡と漢詩

―青森―

森鷗外の近代劇邂逅

「ミカド」から『ドン・カルロス』へ― 金子幸代

不可知なる自己

―(鷗外)的問題構制の始発点へ向けて

講演『舞姫』の新しい読み方(上)

―機能としての(語り)―

一葉作品に向けられた鷗外の視線 畑 有三

森鷗外の(戦争)における(文学)の位棺

―(詩を要求する)心の軌跡と文学の力― 林 正子

鷗外「沈黙の塔」の余波

―池辺三山の朝日新聞退社と散石の「文芸欄」廃止―

秀麿・秋水・ハルナツク 渡辺善雄

―『かのやうに』論補完のために―

Romantique と réalistique 大塚美保

―森鷗外「藤鞠絵」試論―

鷗外『諸国物語』の位相

鷗外史伝小説の人々―多紀■庭をめぐって― 小川康子

鷗外最晩年の患索 ―「古い手帳から」など― 川上俊之

石川淳「古い手帳から」論の修辞法

―鷗外を「敵」とするもの―

佐藤春夫の詩と鷗外

資料紹介 山崎一穎

81号 平成一九(2007) 七・三〇〇

鷗外の「日東七客歌」新釈補遺

―その三重構造―

『舞姫』―「クロステル巷の古寺」考―補説二 藤咲憲一

「舞姫事件」研究の意義とその重要性

―「舞姫事件」考(その一)―

鷗外最後の遺言状とその周辺 林 尚孝

「文づかひ」のデーベン城 川上俊之

クラブント―旅の追憶― ベアーテ・ヴォンデ

【書評】

鷗外研究はいかにして拓くか

―苦木虎雄編著 森鷗外主筆・主宰雑誌目録― 田中 実

【特別寄稿】

「二本足の学者」

森鷗外を論ずるにはいかなる視野が大切かー 平川■弘

エリーゼはミュンヘンの「舞師」である

田中 実

鷗外と石見

ー遺言の「石見人森林太郎」が意味するものー

池野 誠

82号 平成二〇(2008) 一・一九日

【遺稿】

『舞姫の古寺』

川上俊之

鷗外旧蔵 『獄中消息』(大逆事件被告獄中書簡写し)をめぐって

林 尚孝

「語りえぬもの」を語る

田中 実

『舞姫』ー「クロステル巷の古寺」考ー補説三

藤咲憲一

ぐくつて

高橋陽一

『文づかひ』再々読(中編)ー

田中 実

「逐客論」及び「秋風恨」再考

高橋陽一

学軒吉田増蔵の事蹟

大塚美保

未翻刻森鷗外書翰紹介

村岡 功

来日ドイツ人女性はエリーゼ・ヴィーゲルトである

グリンマ・デーベン城のフォン・ペロウ家訪問…

ー東京大学総合図書館鷗外文庫蔵『宗旨雜記より』ー

林 尚孝

二〇〇七年八月 ー一ひとりの婦人ー

森美奈子

議論のある鷗外の漢詩四書

合山林太郎・出口智之

手記を書く語り手、語り手を捉える

ー機能としての語りー 『舞姫』再読ー

田中 実

「鷗莊」にあつた遺品を考える

宮田忠郎

森鷗外の「後北游日乗」と三好中將の檢閲使

松木明知

退役後の森林太郎と臨時脚氣病調査会

山下政三

84号 平成二十一(2008) 一・三〇

86号 平成二二(2010) 一・三三

森鷗外の「後北游日乗」と「北游記」に関連して

鷗外の「北游日乗」に表れた「手児奈□と津軽方言」てこな

鷗外の留学時代の漢詩四首についての異論

松木明知

こな

松木明知

鷗外にはエリーゼと結婚する意志がなかったか

『棕鳥通信』とカール・マイ

『後北游日乗』の足跡と漢詩

ー「舞姫事件」考(その五)ー

林 尚孝

ーコルポルタアジュとエキソチシズムについての一考察ー

ー青森く岩手ー

安川里香子

「後北日乗」の足跡と漢詩

ベアーテ・ヴォンデ

エリーゼはユダヤ人ではない

林 尚孝

ー岩手ー

安川里香子

83号 平成二〇(2007) 七・三〇

森鷗外の「後北游日乗」、「北游記」に関連して(二)

欧州行時の漢詩石黒直恵

高橋陽一

ふたたび、「エリス、ユダヤ人論」

荻原雄一

ー安川氏の論文を読んでー

松木明知

木下至太郎直筆の「鷗外博士の訂正『オルフェウス』の

87号 平成二二(2010) 七・三三

『文づかひ』再々読(前編)

浄書原稿

瀧井敬子

鷗外ナウマン論争再考

—東京大学総合図書館蔵 (Beilage zur Allgemeinen Zeitung)

高橋陽一／荻原剛志

【鷗外手記「鷗外ナウマン論争」紙集】発見を契機として

88号 平成二三(2011) 七・三二

ゲーテのイタリアと鷗外のイタリア  
百年前の森鷗外

平川祐弘  
長島要一

藤元直樹

森鷗外「身上話」の構成と人物描写

清田文武

森鷗外と津和野

松島弘

石黒忠恵欧州行時の漢詩補遺

高橋陽一

再び森鷗外詩の『逐客相遇』について

高橋陽一

祖父森林太郎・(鷗外遺品の名刺の写真)

小堀鷗一郎

神田孝夫の先駆的論文について

林 尚孝

—「舞姫事件」考(その六)—

鷗外の帰国からエリーゼの離日まで

—古田島解釈への疑問

高橋陽一

林 尚孝

鷗外の帰国からエリーゼの離日まで

林 尚孝

「舞姫」と売春

檀原みずす

森鷗外と外崎寛

村上祐紀

—『淡江抽斎』の歴史地図

【書評】

六草いちか著『鷗外の恋 舞姫のエリスの真実』を読む

林 尚孝

—『淡江抽斎』の歴史地図

村上祐紀

—「舞姫事件」考(その八)

林 尚孝

小林士官の想像力—森鷗外「文づかひ」—

古郡康人

【報告】

記念会会長 山崎一穎

六草いちか著『鷗外の恋 舞姫のエリスの真実』を読む

鷗外と易学をめぐり

小川康子

88号 平成二三(2011) 一・三二

高橋陽一

89号 平成二四(2012) 一・三二

山崎一穎

—『うた日記』の俳句から—

小川康子

潘飛聲の『伯林竹枝詞』

高橋陽一

90号 平成二四(2012) 一・三二

高橋陽一

森林太郎の医学大業績—臨時脚気病調査会—

山下政三

小金井日記 「軍医学舎一件アリ」の意味するもの

林 尚孝

—「舞姫事件」考(その七)—

高橋陽一

『椋鳥通信』における鷗外の引用戦略

金子幸代

—「舞姫事件」考(その七)—

林 尚孝

森林太郎の「小倉左遷」をめぐる余話

山下政三

—「市民的公共圏」を求めて—

金子幸代

「皇族」を書く

村上祐紀

森鷗外「里芋の芽と不動の目」論

山下政三

鷗外「椋鳥通信」時代の情報圏

山口徹

森鷗外「吃逆」論—〈対等〉

原 貴子

—階層の拘束力原 貴子

山下政三

—一九一四年の切断—

山口徹

【寄稿】

長島要一

淡江抽斎の嗣子「保」(成善、道陸)の生年と名について

穂積家の滅亡—「蛇」を読む—

酒井敏

「文化の翻訳」と先駆者森鷗外

長島要一

ドレスデン時代の鷗外とやきもの

松木明知

鷗外「百物語」と『歌舞伎新報』

目野由希

【特集】

長島要一

91号 平成二四(2012) 七・三二

大平雅巳

鷗外の詩「擡頭見喜」から小説「鼠坂」へ

清田文武

〈NHK ハイビジョン特集〉「鷗外の恋人—百二十年後の真実」を見て

91号 平成二四(2012) 七・三二

大平雅巳

ふたりの女形—森鷗外「女がた」と三島由紀夫「女方」—

藤木直実

の真実」を見て

—鷗外生誕150年記念号—

大平雅巳

藤木直実

アンナ・マリア・ベアーテ・ヴォンデ／村岡 功／林 尚孝／

\*\*\*\*特別寄稿\*\*\*\*

鷗外訳『ファウスト』への視線—翻訳後百年—

松木博

千賀は「ちが」か「仙賀」か

—『後北游日乗』の漢詩五首—

高橋陽一

文学テクストにおける〈夢〉の威力、ないしは権能

—『舞姫』の二人のモデル(下)—

山下万里

映画『一八九五』に表象された鷗外像

林淑丹

—「山椒大夫」の生成過程に即して—

大石直記

森鷗外の小倉時代、「戦論」翻訳をめぐる

石井郁男

\*\*\*〈鷗外生誕150年記念事業・行事 特集〉\*\*\*

雪冤の戦略 — 森鷗外『津下四郎左衛門』論—

大塚美保

92号 平成二五(2013) 一・三二

・森鷗外記念館(津和野)主催

作品「余興」の位置

小泉浩一郎

森鷗外と赤松登忘子の、離婚に至る経緯

森鷗外生誕150周年記念シンポジウム

言葉を発しない女 — 森鷗外「ちいさんばあさん」論—

—結婚経緯補足を含め、赤松文書紹介—(第1回)

「雁」をめぐる

小林幸夫

杉本完治

パネリスト 小泉浩一郎・清田文武・田中実

『洪江抽斎』成立の背景と漢方医学

森鷗外の漢詩解釈ノート(一)

高橋陽一

コーディネーター 山崎一穎

— 渋江保、佐藤元長、中村不折の新しい視座—

「独逸日記」の少女ファンニイとエリーゼ

高橋陽一

司会 齋藤道夫

好古と考古 — 森鷗外「鳥八白の解釈」と『伊沢蘭軒』—

「舞姫事件」考(その九)

林 尚孝

・森鷗外記念会主催

第十回文部省美術展覧会第二部審査主任・森林太郎の

現場の論理—森鷗外「蛇」論

原 貴子

森鷗外生誕150周年記念シンポジウム

激怒 — 国民美術協会と鷗外—

六草いちかの調査における成果と問題点

萩原雄一

—森鷗外研究の新たな地平を拓く—

曾祖母の家

須田喜代次

— エリス、ユダヤ人論の観点から—

萩原雄一

基調講演 平川祐弘

森鷗外、父と祖父・祖母を通して

岸 敬二

「鷗外」第九十一号(平成二十四年七月)掲載の『資料紹介』の訂正について

パネリスト 長島要一/Matilde Mastrangelo

森鷗外の結核 付弟篤次郎の剖検記録

森 憲二

料紹介』の訂正について

司会 山崎一穎

資料紹介 一 旧赤松家記念館訪問記

森 憲二

93号 平成二五(2013) 七・三二

・鷗外生誕150年記念事業・行事 報告

二 「東京医学校」入学志願者募集要項

山崎一穎

93号 平成二五(2013) 七・三二

事務局より

「結婚経緯補足を含め、赤松文書紹介—

炉辺談話 祖父の観潮楼跡

森哲太郎

『オルフェウス』から『彌五右衛門』を思う

【投稿論文】

山崎一穎

森鷗外と赤松登志子の離婚顛末(二)

杉本寛治

高橋修司

【投稿論文】

山崎一穎

森鷗外の漢詩解釈ノート(二)

杉本寛治

\*\*\*特別寄稿\*\*\*

『雑纂』中に埋もれていた森鷗外の漢詩四首 高橋陽一

森鷗外の漢詩解釈ノート(二)

杉本寛治

【特別寄稿】

森鷗外のキュリー夫人への関心

『現代化学』2013年2月号No.203より転載)

立花太郎

【資料報告】

資料一 全集未収の「人体の自然美」

資料二 「美人画報」に載った「藤巴」

水沼次郎

\*\*\*\*\*

記念会通信 索引(創刊から一一七号まで)

ベルリン森鷗外記念館

赤嶺麻衣子

【訂正記事】

84号 平成二六(2014) 一・三三

森鷗外『航西日記』漢詩の瑕瑾?

高橋陽一

森鷗外と赤松登志子の、離婚に至る経緯

―結婚経緯補足を含め、赤松文書紹介―

杉本完治

末は博士か大臣か―森鷗外と千賀鶴太郎と小松原英太郎―

山下萬里

―機関誌『鷗外』の内容とその投稿規定について―

編集委員会

【訂正とおわび】

「鷗外93号」編集作業担当 倉本幸弘

85号 平成二六(2014) 七・三三

「舞姫」はなぜ一八九〇年一月に発表されたのか

―「舞姫事件」考(その一〇)―

林尚孝

土木学会選奨旭川軍用水道と森林太郎(鷗外) 陸軍

省医務局長

鈴木繁

【資料紹介】

森於菟の「一夜」(付翻刻)

水沼次郎

86号 平成二七(2015) 一・三三

閑澄桂子 ―千住時代森鷗外の交友圏―

大塚美保

森鷗外の漢詩解釈ノート(三)

―「庚辰歳旦醉歌」と『北游日乗』の五首―

高橋陽一

「舞姫」の太田豊太郎の母の死をめぐる

三浦吉明

【報告】

文京区立森鷗外記念館所蔵佐藤春夫書簡

森於菟作「一夜」に関する内容

倉本幸弘

87号 平成二七(2015) 七・三三

鷗外がベルリンで見たパノラマ

―「ペルガモン・パノラマ」について―

倉林 靖

続・閑澄桂子 ―千住時代森鷗外の交友圏―

大塚美保

森鷗外の漢詩解釈ノート(四)

―詩の核心部分に異論のある四首―

高橋陽一

「青年」に描かれた大宮公園

沼田尚道

森於菟の小説「樊遲の夢」と『世界人』

付・戦後十年間の鷗外関連著作一覽

水沼二郎

鷗外の孫・山田壽の命名をめぐる書簡集成 山崎一類

88号 平成二八(2016) 一・三三

森鷗外とガブリエル・マックス

美留町義雄

森鷗外の漢詩解釈ノート(五)

―佐藤敏行の指摘について―

高橋陽一

『鷗外』総目次

86号(平成二二年一月)より97号(平成二七年七月)まで

『鷗外』誌編集作業担当

森鷗外記念会編・刊行の『鷗外印譜』の訂正について

97号「鷗外の孫・山田壽の命名をめぐる書簡集成」に

ついでに訂正

山崎一類

89号 平成二八(2016) 七・三三

「舞姫」の相沢謙吉のモデルは誰か

森鷗外「花子」論

林尚孝

―ロダンが見た「花子」・花子が見せた「素」

『辛酉二月在圖書寮觀乃木將軍書扇謹題』の典拠

『辛酉二月在圖書寮觀乃木將軍書扇謹題』の典拠

鷗外の歴史小説に対する中国語訳史概説

「壽阿彌の手紙」

王小允

―桑原家に関する情報提供 置塩菜園と鷗外との往復書簡

杉本完治

鷗外自筆資料『池田氏事蹟』

―『渋江抽斎』から『伊沢蘭軒』へ―(上)

小川康子

## 【報告】

内藤幸穂氏とその系族が繋ぐ鷗外関係者 鈴木 繁

100号 平成二九(2017) 一・三二

## 【資料報告】

○鷗外の「心頭語」(一部)の初出について

○賀古鶴所の青年について

文京区立森鷗外記念館 岩佐春奈

## 【特別寄稿】

第一次世界大戦と鷗外のヨーロッパ離れ― 長島要一

〈創作的批評〉の盲目性

―同時代評から読む森鷗外「フアスチエス」― 坂崎恭平

「壽阿弥の手紙」の桑原苾堂について 杉本完治

森鷗外の漢詩解釈ノート(六)

―「雲」の比喻表現―

高橋陽一

津和野町立森鷗外記念館展示資料

鷗外の父森静男宛西周書簡の物語るもの

―明治二十二年(一八八九)二月―

小泉浩一郎

『西周日記』―明治二十六年八月十四日〜八月三十一日―

あまね会

## 【報告】

祖父筑摩定三郎と鷗外とのかかわり

筑摩孝雄

二〇一二年の『羽鳥千尋』の「百回忌」

田中幸昭

## 【資料紹介】